

弘法新聞

2020. 1. 1 NO98

篠栗四国第八十五番霊場

発行者 郷の原観音 祖聖大寺 住職 加藤丈尚

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗 80-1 Tel 092-947-6368 FAX092-947-6717
ホームページ <http://sosyoudaiji.com/> メールアドレス kanzeon17@yahoo.co.jp

謹賀新年

明けましておめでとうございます。謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
旧年中は色々とお力添えを頂きまして有り難うございました。

昨年(ことし)の9月には関東地方に台風15号と地震、続いて台風19号による中部地方広範囲、東北地方を襲った相次ぐ自然災害。その傷跡が未だ残り、被害の大きさを物語っています。色んな事が起こります。その中をお祖師様の教えに沿って精進してゆきたく思っております。被災地の復興と皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

随感

— 初日の出 過去何度 拝んだかな —



2020年 子年の幕開け。一体どんな年になるのでしょうか。
昨年は、世界的に政治・経済と色々めまぐるしく変化のあった年でした。国内も同じで、中でも自然災害(秋の台風15号、19号)による被害が例年以上にひどく、自然が私達に警告をしているようにも思えました。

話は変わりまして、まだ時期尚早の桜の話です。桜の花は私達日本人の最も愛する花でしょう。“花は綺麗だが散った後の掃除は大変。だから、来年から咲くな”という思いを言葉にすると桜の花は翌年、綺麗に咲かないようです。反対に“今年も綺麗に咲いたね。来年は更に綺麗に咲いてね”との思いでプラス言葉を投げかけたら、もっと綺麗に咲くそうです。

“以心伝心”という教えの如く、桜の花も同じく私達の思いを感じ取っているようです。
昨年、“生命へのいざない”という番組で人間の先祖は wood (木) であるとの事でした。この事から私達と自然は一体である事になります。弘法大師が説かれる“物皆、仏性あり”という言葉に繋がり、私達の感情は自然界にも影響を与え、その時の私達の心のあり方がとても重大であります。

昨年の新年号でも掲載致しました“十善戒”という戒律。その中でも最後の(不瞋恚)という箇所です。“すぐ腹を立てない”との意味です。

腹を立てるという事は、怒りの炎を燃やす事。怒りの炎は自分が色々積み重ねた善根功德をも全部焼き尽くしてしまい、この世の地獄を作り出すからです。今、自然災害が多いのも私達が神仏に対しての畏敬の念を忘れ、すぐ腹を立て、不足ばかり口にしてしているからです。このマイナスのエネルギーが自然界のあらゆる箇所へマイナスの影響を与えています。

マイナスに思える事でもどこかは良いところがあります。良い所探しをしてみてください。そこから新しい発見が出来、プラスの人生になる事もあります。

新年にあたり自分の住んでいる地域の氏神様、自分のご先祖様、仏様に改めて感謝の思いを馳せ、怒りの炎を燃やさないよう心がけ、プラス思考の実践で新年をスタートしましょう。皆様の前途に必ず光明が射して来ると思います。